

【河太郎】かはたらう

河太郎とは河童の異名です。川に住む空想上の動物で、人間の子供ほどの背丈で嘴のような尖った口、背に甲羅、体は鱗に覆われ手足に水掻きがあります。頭に皿と呼ばれるくぼみがあり皿に水を貯め陸上に上がります。この水がなくなると死ぬといわれています。

川辺を歩く馬などの足を水中から引っ張り水に落として生き血を吸うといいます。

いたずら好きで人を困らせますが、そのユーモラスな容姿は憎めない存在です。

柳田国男によれば、河童は「川」と童子を表す「わつぱ」が重なった言葉だということです。

日本各地にその伝説が認められ、関西は河太郎、関東は河童、その他、ガタロウ・川小僧・河伯・水虎・カアスッパ・ガメ・エンコ・ミズチ・カワランベなど各地独特の呼び名があるようです。皆様のお国の河童は何と呼ばれていますか。

河岸における水難の根拠として育った空想上の動物なのでしょう。

鯨ネタの胡瓜を河童というのは胡瓜が河童の好物だからなのでしょう、水分が不可欠だからでしょうか、それとも夏を連想させるところに由来があるのでしょうか。

- ・僕はだんだん河童の使ふ日常の言葉を覚えて来ました。従つて河童の風俗や習慣ものみこめるやうになつて来ました。その中でも一番不思議だつたのは河童は我々人間の真面目に思ふことを可笑[オカ]しがる、同時に我々人間の可笑しがることを真面目に思ふ—

芥川龍之介『河童』より

今日七月二十四日は河童忌です。河童を好んだ芥川龍之介の忌日です。

夏に河童忌とは桜好きの西行同様、うまい時に逝つたものだと感心させられます。(西行忌旧暦二月十六日・グレゴリオ暦 1190 年 3 月 30 日)

茶の湯で河太郎といえば、河太郎棗でしょう。

裏千家四代 仙叟[センソウ]宗室のお好で、大棗の甲にあるへこみを河童の皿に見立てての名称です。(同形の意匠はそれ以前からあったという話を聞いていますが、私は確認していません)

意外にも本歌の箱書には「河太郎」という記載はないそうです。後の世の愛称なのか。そもそも仙叟が河童を作意としていたのか知りたいところです。

ちなみに、この棗の外箱には十一代玄々斎筆で「水虎」(河童の異名)と書かれています。

仙叟は宗旦の子。三千家に分家時の家元で加賀前田家の茶道茶具奉行として活躍し、寒雉の釜や大樋焼などに数々の好み物を残した人です。

近所の地元公立図書館で河童を主題とした書籍を探したところ、冊数の多さに驚きました。文学関係を除く民俗学的研究書だけでも 20 冊以上ありました。どれも面白そうですよ。

文学に止まらず民俗学の研究テーマとしても河童は人気者のようです。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~